

当文教厚生委員会に付託された案件については、9月11日及び14日は午前9時30分から、20日は午後1時から、いずれも委員全員出席のもと委員会室において、慎重審査しましたので、その経過と結果をご報告申し上げます。

認定第1号中、当委員会に分割付託された案件については、補足説明の後、質疑に入り、主な質疑として、

初めに、一般会計について申し上げます。

福祉部所管分では、

地域住民による助け合い組織はどのように発足しているのか。また、シルバー人材センターのワンコインサービスの活動内容と類似性が見られるが、平成28年度において問題は発生しなかったか。とに対し、

既に助け合い組織が活動している他地区での取り組みを「ふくし井戸端会議」で紹介するなどのきっかけづくりを行い、地域が盛り上がる中で発足しています。なお、シルバー人材センターのワンコインサービスと、サービス内容は類似していますが、特に問題は発生していません。とのこと。

平成28年度から障害者差別解消法が施行されたが、どのような取り組みを行ったか。とに対し、

職員に対しては研修会を実施し、普及啓発を図りました。また、今年度新たに半田市障がい者自立支援協議会に権利擁護部会を設置し、障がい者差別や虐待防止の理解促進に努めています。とのこと。

神奈川県相模原市のやまゆり園で発生した障がい者の殺傷事件の発生を受けて、市内の障がい者施設や高齢者施設での防犯対策はどのように取り組まれたか。とに対し、

各事業所に対しては、本事件について周知し、防犯対策の徹底をお願いしました。また、入所支援施設については国からの補助金を受けて防犯カメラ等の設置を行っています。とのこと。

生活困窮者自立支援事業における家計相談支援事業について、相談を行った70人の内、実際に支援を決定したのは8件とのことであるが、残りの相談者について、どのようなフォローが行われたのか。とに対し、

本事業については、年間を通じた収支プログラムを作成する援助が必要と判断された方に対して支援を行う制度ですが、対象外となった相談者についても、個々の状況に応じて、社会福祉協議会の生活貸付資金やハローワークへの就労支援など他の事業に結びつけることでフォローを行っています。とのこと。

老人クラブ活動助成事業について、会員数が減少しているがどのように考えているか。また、今後どのように取り組んで行くか。とに対し、

70歳以上の会員の割合が8割を占め、新規の会員も増えない状況にあり、このまま続けていくことは厳しいと感じています。社会情勢の変化や介護保険の新しい総合事業がスタートしたことから、老人クラブの担う役割について改めて議論していきたいと考えています。とのこと。

地域ふれあい施設事業について、施設運営費補助から事業費補助へとシフトしているが、平成28年度の各施設の運営状況はどのようであったか。また、今後の方向性はどのようか。とに対し、

平成28年度途中で施設運営費補助が終了したやなべふれあいセンターも含め、自主運営しているカフェの売上や新しい総合事業での事業費補助などを収入として、現在、開設されているふれあい施設については順調に運営されています。今後も、地域の方たちに役割を担っていただくとともに、安定的に自主運営できるよう協議していきます。とのこと。

亀崎地域総合福祉センター運営事業について、浴室の修繕工事によって利用者数が減少したとのことであるが、固定した利用者ばかりで他の地域住民が利用しづらい施設となっていることも要因と考えるがいかがか。とに対し、

本施設については、高齢者だけではなく障がい者や母子家庭など幅広く利用していただくことを目的としています。しかしながら、高齢者の利用が多いことから、「高齢者用施設」であるとの認識は否めないため、まずは、本施設に携わる関係者の方々に理解していただくよう努めていきます。とのこと。

次に、健康子ども部所管分では、

要保護児童対策事業について、虐待の発生を防止するためにどのようなことを行ったか。とに対し、

例えば幼稚園や保育園に働きかけ、希望する園で保護者向けに児童虐待防止の研修会を開催しています。また、個々の家庭児童相談の際には、虐待に繋がらないよう支援を行い未然防止に努めています。とのこと。

待機児童対策について、0から2才の低年齢児の保育ニーズへの対応はどのようにであったか。とに対し、

平成28年度から民間で小規模保育施設が新設され、定員を18人増やすことができました。また、民間保育所の移転新築の相談があった際に、低年齢児の定員枠を拡げていただけるよう働きかけを行い、今年度、実現することができました。とのこと。

平成28年度から企業主導型保育事業が創設されたが、半田市としてどのように取り組んで行くのか。とに対し、

本事業については、保育所の施設整備や運営に係る費用を国が直接企業に対して助成するものですが、実施企業以外にも地域の子供を一定数受け入れることが可能であり、待機児童対策に有用であるため、半田市としても推奨していきたいと考えています。とのこと。

平成28年度から白山保育園において、給食調理業務が委託化されたが、どのように評価しているか。とに対し、

より厳しい衛生管理マニュアルの下で、適正に調理が行われ、更に、業者側からの提案で食育の推進にも寄与することができました。また、委託前は職員体制の面で苦慮していましたが、その課題も解消し、常に安定的に給食を提供できるようになったことが大きなメリットです。とのこと。

地域自殺対策緊急強化事業について、ゲートキーパー養成講座の受講者数が53人と少ないと思われるが、いかがか。とに対し、

この受講者数は、半田市が所管しているボランティアや市の職員を対象に講座を実施をしたものであり、他にも保健所が民間事業所などを対象に開催していますので、それを含めると相当数の受講が進んでいるものと考えています。とのこと。

がん検診等推進事業について、検診受診率が低いと思われるが、今後どのように改善を図っていくのか。とに対し、

胸部X線検査の受診率が著しく低いため、検査の実施可能な医療機関を増やすことと共に、国保特定健診の際に併せて胸部X線検査が受診頂けるよう、医師会と協議を行っています。とのこと。

健康なまちづくり事業について、ウォーキングを健康面だけではなく、まちづくりに繋げていくために、今後どのように展開していくのか。とに対し、

今後もコースのPRを中心に進め、ウォーキングする人を増やし、賑わいを高めることで、健康的なまちづくりに繋げていきたいと考えています。とのこと。

はんだ健康マイレージについて、平成28年度から始まったが、実績はどうであったか。また、今後も継続していくのか。とに対し、

平成28年12月31日現在、100ポイントを貯めたマイカ所有者は34名であり、特典を受けられる協力店は市内6店舗です。現在、ポイントを付与する機会を増やし推進に努めていますが、マイカ所有による魅力が十分とはいえないため、今後の状況を見て、継続性についても検討していきます。とのこと。

野外活動センター管理運営事業について、今年度で廃止することに伴い、利用者に対して、どのようなフォローが行われたか。とに対し、

廃止決定以来、ホームページで近隣自治体の施設を紹介するなどのフォローを行っています。とのこと。

次に、教育部所管分では、

特別支援教育推進事業について、平成28年度、幼稚園への臨床心理士の派遣を年3回から年6回に増やしたことにより、どのような成果を得られたか。とに対し、

従来より手厚く支援が行えたことに加え、小学校入学前に半田市の特別支援の状況について、個別のケースに対応した詳しい説明ができ、保護者の理解を深めることに繋がりました。とのこと。

いじめ・不登校対策事業における適応指導教室について、平成28年度から新たに公民館や図書館での受け入れを行ったが、成果はどうか。また、受け入れ児童生徒の把握や指導はどのように行ったか。とに対し、

不登校児童生徒の中にはマーキュリールームに通う事も困難なケースがありますが、受け入れの選択肢を増やしたことで、実際に図書館での受け入れからマーキュリールームへ通うことに繋がった事例がありました。また、児童生徒の図書館等での日々の状況については、その施設の職員の協力のもと、記録簿に自らが記録することで把握しており、来館時には随時、マーキュリールームの室長・指導員や教育委員会の指導主事が巡回するなど、支援に努めています。とのこと。

旧中埜家住宅保存管理事業について、改修後の活用のためにどのように取り組まれたか。とに対し、

平成28年9月で保存修理工事が終了し、以後、建物の活用に向けて電気・消防設備や外構工事を行いました。今後は、活用委員会を立ち上げ、文化庁の指導を仰ぎながら、活用方法について議論を進めていきます。とのこと。

音楽文化振興事業について、どのような成果を得られたか。とに対し、

小学校13校全ての4年生に対して、音楽の授業で実際にプロの演奏に触れてもらうことができ、子どもたちにとって音楽に親しむきっかけづくりになりました。また、中学校の吹奏楽部への指導も行われ、今後の部活動に生きるものになったと考えています。とのこと。

公民館の老朽化に伴う更新計画について、どのように検討されたか。とに対し、

平成31年度からの公共施設更新計画に基づき、建設から既に40年が経過した建物については順次建て替えを、今後40年を迎える建物については大規模改修を行い長寿命化を図る予定であり、社会情勢や市民のニーズ、また他の施設の更新等も勘案しながら、必要な施設や規模について検討している段階であります。とのこと。

新美南吉記念館一般事務について、平成28年度特に力を入れたことは何か。とに対し、

ガイドボランティア南吉案内人の充実を図り、単に展示ガイドや文学散歩

を行うだけでなく、ガイドさん自身が勉強をして口コミで広めていただいた結果、飛躍的にガイドした人数が増えており成果を得られたものと感じています。とのことでした。

次に、国民健康保険事業特別会計について申し上げます。

半田市はメタボ率が高いが、改善に向けてどのように取り組んだか。とに  
対し、

特定健診の結果が良好でない方に、保健師や栄養士が電話及び訪問による生活習慣の改善指導を始め、ヘルシーライフ講座や血管年齢測定などを行い、健康管理意識の向上に努めました。とのことでした。

次に、介護保険事業特別会計について申し上げます。

徘徊 SOS ネットワークの構築はどのように進んだか。とに  
対し、

行方不明高齢者情報メール配信につきましては、平成29年3月末現在759名の登録を頂いています。また、新聞配達店や郵便局など33団体と見守り協定を結んでおり、このメール配信と併せて連携がとれるよう協議を進めています。とのことでした。

以上のような質疑を行った後、討論を省略し、一般会計と4件の特別会計を採決しました。

まず、平成28年度半田市一般会計の歳入歳出決算のうち、当委員会に分割付託された案件については、挙手により採決した結果、賛成多数をもって認定することに決定しました。

次に、平成28年度学校給食特別会計歳入歳出決算、  
平成28年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算、  
平成28年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算の3会計については、それぞれ採決した結果、いずれも委員全員をもって認定することに決定しました。

次に、平成28年度後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算については、挙手により採決した結果、賛成多数をもって認定することに決定しました。

以上、ご報告申し上げます。